

平成 28 年度インターンシップ報告書

国立大学法人帯広畜産大学
大学教育センター

目 次

帯広畜産大学におけるインターンシップ事業の取り組み	2
帯広畜産大学におけるインターンシップ事業の特色と課題	3
帯広畜産大学におけるインターンシップ参加者及び受入事業所数	4
平成28年度インターンシップ実習生一覧	5
研修レポート	6

帯広畜産大学におけるインターンシップ事業の取り組み

1. インターンシップ導入の経緯

平成9年度に、当時の文部省、労働省及び通商産業省は、3省連絡会を設置し、インターンシップに関する3省の共通した基本的認識及び推進方策を明らかにした。また、各地域においてインターンシップ導入促進のための整備・充実を図る目的から「地域インターンシップ全国連絡会議」が設立された。

これらの動きの中で、北海道においてインターンシップの導入促進を図るため、産学官が一堂に会し、インターンシップの普及・啓発とともにインターンシップに関する大学・企業間等が情報交換を行う「北海道地域インターンシップ導入促進連絡会議」が設立された。更に、北海道におけるインターンシップの本格的導入の足がかりとなるように、「インターンシップモデル事業」が平成11年の春期及び夏期の2回にわたり実施された。

「第1回インターンシップモデル事業」には、本学から3事業所へ6名の学生が参加し、「第2回インターンシップモデル事業」には1事業所へ1名が参加した。平成12年度の事業には、本学から参加者がいなかった。そのことを検証した結果、学生の参加が容易な環境を整えることが急務であることを認識するに至った。そのために、本学では独自のインターンシップ事業を展開することとした。

その具体的内容は、次のようなものである。本学は、道央圏（札幌圏）から約200キロメートル隔たり、しかも、道外出身者の学生割合が当時8割を超える学生構成となっていたこと、さらに、道外及び道内に、インターンシップ受入事業所の多くが所在することが、学生の参加を困難にしている、との結論に達した。このことから、平成13年1月より、十勝圏における受入事業の開拓作業に着手した。また、関係する官公庁・地方公共団体・公社さらに農業団体及び過去5年間に卒業生が就職した企業約80事業所を、副学長及び当時の教務課長が精力的に訪問し、インターンシップ受入れの依頼を行った。その成果とも受け取れるように平成13年度には25事業所からインターンシップ受入れの申込みがあり、現在に至っている。

2. カリキュラム上のインターンシップの位置付け

平成11年度入学者からインターンシップを授業科目「就業体験実習」1単位として開講し、獣医学科は3期から6期に、他学科は3期から5期に受講する各学科関連専門科目としてカリキュラムに組み込むこととした。

平成14年度入学者からは、共通教育分野における共通総合科目に「就業体験実習」2単位として開講し、獣医学科は3期から10期に、畜産科学科は3期から5期に受講することとした。

平成20年度入学者からは、カリキュラムの改訂により、基盤教育分野における生きる基盤・発展的科目として「インターンシップ」1単位として開講し、獣医学課程は3期から10期に、畜産科学課程は3期から8期に受講することとした。この改訂に伴い、新たに生きる基盤・発展的科目として「基礎キャリア教育」1単位が開講した。

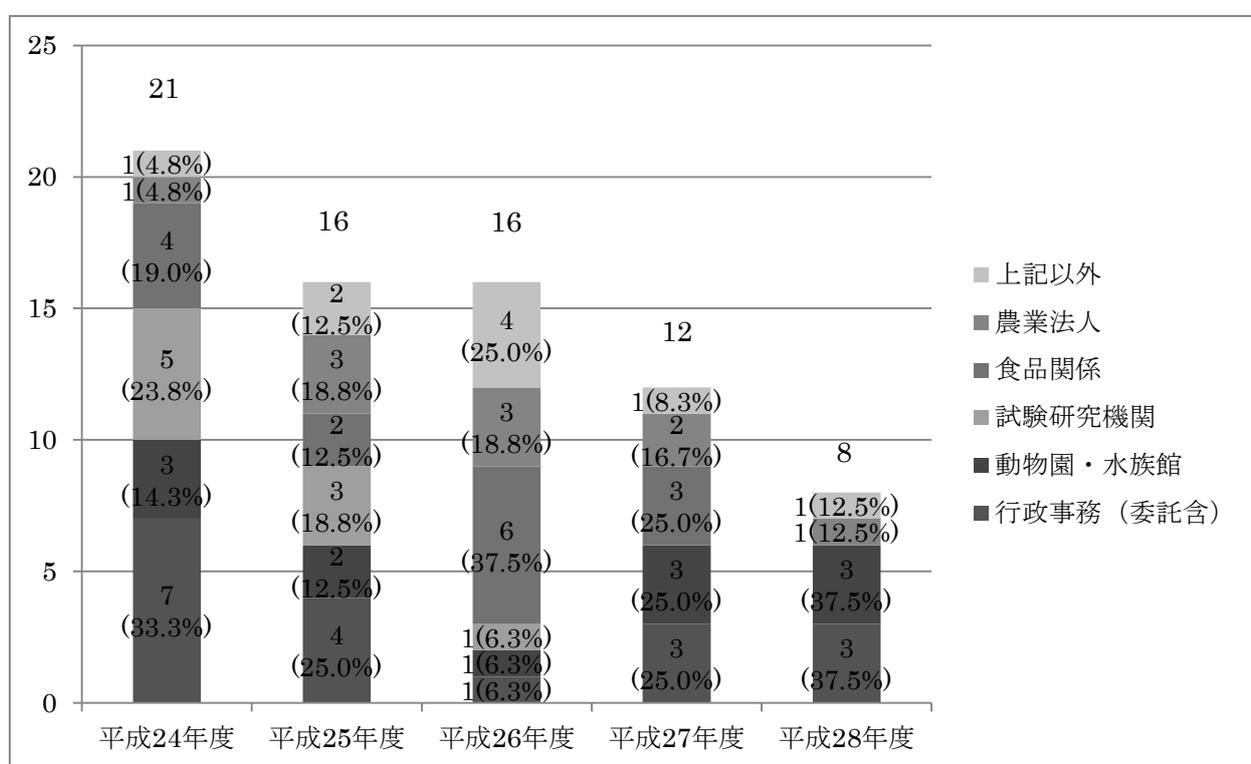
また、実習期間は原則として上記の開講期における夏期休業期間内（8月17日～9月30日）の5日間とした。さらに実習希望学生には、事前研修（服務研修）の参加を義務づけるとともに、「就業体験実習（インターンシップ）日誌」及び実習レポートの提出を義務づけ、日誌およびレポート等をもとに指

導教員（各ユニットの就職支援室員）が評価し、単位を認定することとした。また、本学では学生の科目履修に当たり、キャップ制（年間 46 単位以内の修得）を採用しているが、本科目「インターンシップ」はこの制度から除かれる科目とし、卒業要件単位として認めている。

3. インターンシップ実習生による報告会の実施

平成 16 年度より、振り返り学習として、インターンシップ実習生による報告会を実施している。平成 28 年度からは、低学年次学生の就業意識涵養を図るため、キャリア教育 I（1 年次必修科目）の 1 コマとして報告会を実施することとした。

帯広畜産大学におけるインターンシップ事業の特色と課題



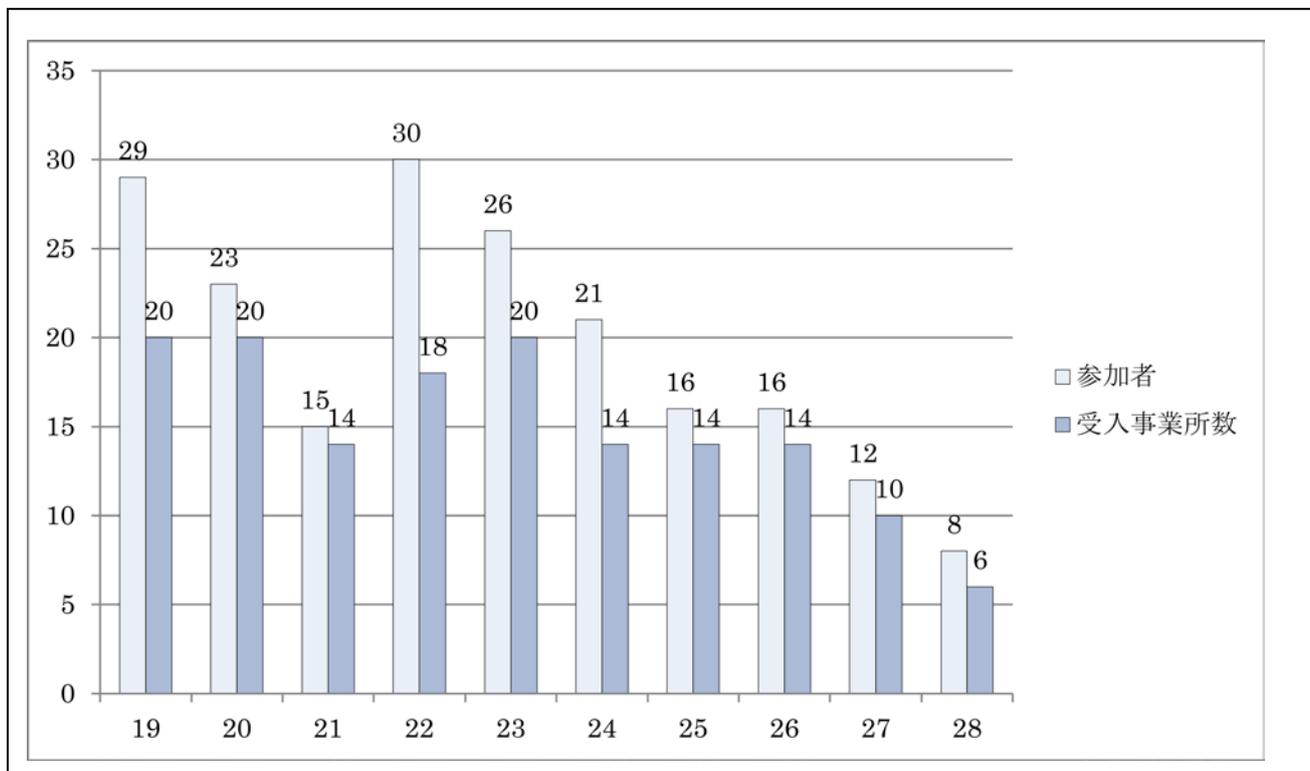
過去 5 年間（平成 24 年度～平成 28 年度）における実習先の事業内容で分類したときのグラフは上のとおりである。食品関連産業や農業法人といった、本学の学修分野に沿った実習先へ学生が参加する一方、本学では、公務員や学芸員（動物園・水族館）に就職を志望する学生も多く、グラフからもそのことが表れている。

本学のインターンシップ事業における課題は、実習に行く学生数が元々少なく、かつ減少傾向が見られることである。毎年本学では 250 名の学生が卒業し、全体の 6～7 割、すなわち 160～170 名の学生が毎年就職する中、「インターンシップ」を履修し、参加する学生は毎年 1 割に満たない人数となっている。

しかし、実習を通じこれまで学生が抱いていた仕事や職場のイメージの違いに気づき、自分の進路を考える上で役立つ経験であったと、報告会で話す学生が多く見られることから、前もって社会に出て就職することを意識することが大切であることは明白である。学生にとってインターンシップは意義深い

機会であるため、学生に対し、インターンシップに関する認知を高めるなど、参加意欲向上のための取り組みが必要だと思われる。

帯広畜産大学におけるインターンシップ参加者及び受入事業所数 (過去10年間：平成19年～平成28年)



平成28年度インターンシップ実習生一覧

所属・学年	氏名	実習事業所
畜産科学課程 3年	吉峯 ゆかり	愛媛県立とべ動物園
畜産科学課程 3年	鈴木 聖也	帯広市 職員課
畜産科学課程 3年	小林 史香	帯広市 職員課
畜産科学課程 3年	栗原 佑紀	帯広市 みどりの課, 環境都市推進課, 都市計画課
畜産科学課程 3年	齋藤 英嗣	帯広市教育委員会 おびひろ動物園
畜産科学課程 3年	宮崎 彩乃	神戸市立須磨海浜水族園
畜産科学課程 3年	渡部 衿香	公益財団法人知床財団
畜産科学課程 3年	権藤 七虹	有限会社ワールド牧場

研修レポート

畜産科学課程 3年 吉峯 ゆかり
実習事業所 愛媛県立とべ動物園

私は、9月3日～13日の10日間(9日は休み)、愛媛県立とべ動物園で就業体験を行いました。就業体験先一覧から探し、大学を通して申し込みました。

とべ動物園で就業体験を行おうと思った理由は、動物園の飼育係を目指しているからです。飼育係の就職は狭き門だということは分かっていたのですが、今年の夏が最後のチャンスだと思い申し込みました。

私はアフリカゾーンに配属され、主にアフリカゾウ・ライオン・キリン・サイなどを担当しました。仕事内容は獣舎や放飼場の掃除とエサの準備が中心でした。特にゾウ舎の掃除は、大量の糞の処理が大変で体力的に辛かったです。必死についていこうと努力しました。動物園の飼育係は力仕事が多いので、女子でも男子並みに働ける体力がないと務まりません。実習中で自分自身の体力の無さを痛感しました。まずは体力をつけることから始めようと思います。

実習中に感じたのは動物に対する思いやりです。老年のシマウマの寝床にはゴムマットや乾草が敷いてあり、できるだけ脚への負担が軽くなるように工夫されていました。またエサの準備では、栄養が偏らないようにビタミン剤の錠剤や粉末を与えていました。動物の様子を毎日観察し、動物が暮らしやすいよう最善を尽くすことが重要だと教えていただきました。

就業体験をするまでに、実習先について十分に予習してノート等にまとめておくと、より充実した就業体験が行えると思います。ブリーディングロウ制度、ハズバンダリートレーニング、環境エンリッチメントなど、大学の環境生態学実習でおびひろ動物園の園長さんに教えていただいた内容が毎日のように話題に上がり、とても役に立ちました。

とべ動物園は、動物の魅力が伝わるような展示やイベントが特徴的です。動物の生態を理解してもらい、環境教育に結びつけたいと考えているからだだと思います。動物が生き生きとしている姿を見て、少しでも多くのお客さんが動物に興味を持ってほしいです。

実習中の10日間は、毎日違う飼育員さんにお世話になりました。実習中は仕事の仕方だけではなく飼育員の就職の厳しさやアドバイスなど、実際に実習に行って直接聞かなければ知ることのできない貴重な話をたくさん聞くことができました。

また動物園の使命、飼育員さんの覚悟や情熱も教えていただきました。今回のインターンを終えてより一層動物園の飼育員を目指したいと思いました。狭き門ですが心残りが無いように挑戦したいです。



畜産科学課程 3年 鈴木 聖也
実習事業所 帯広市 職員課

私は、将来帯広市役所で就職したいと考えており、一度市役所で職業体験をするため、大学から申し込みをして帯広市役所のインターンシップに参加致しました。

5日間市役所の総務部職員課で働き、職員の方と接することで、たくさんの事に気づかされました。私は、体験中に市役所のそれぞれの部署についての仕事内容をお聞きしました。部署によって仕事内容は全く違いますが、どの部署も根本である考え方は市民のために尽力し、市民が暮らしやすい街をつくることだと感じました。印象的だったことは、市役所の一階に市民の相談室があり、悩みを抱える人がいつでも相談しに来ることができることです。このようなことから、市役所で働くにあたって大事なことは優しさであると感じました。

もう一つの大事なことは、仕事に妥協しないことだと感じました。今回、インターンシップの中で職員研修のお手伝いをしたのですが、研修の会場設営をする時、机・イスをどのようにすると話を聞きやすいか、ディスカッションしやすいか、通路は通りやすいかに気を遣って配置しました。また、倉庫に収納してある制服の枚数を数える仕事もしたのですが、付箋にわかりやすくまとめ、引き出しに貼っておくことで、だれが見てもわかるようにしておきました。このように、ただ言われた仕事をするだけではなく、より良い状態にするにはどうすべきか、常に考えながら仕事をするのが大事であると感じました。

この考え方は、これからの生活の中でも大事なことであります。学校の課題をする時や、サークル活動で仕事を任されたとき、妥協せず、良いものにするにはどうすべきか、考えながら仕事をしていきたいと思いました。

また、私は研修の準備をしているとき、細かいミスに気付くことができ、職員の方に褒めていただくことができました。その時、単純な作業だとしても「何に使うか」考えながら仕事することで、細かいミスにも気付くことができると教わりました。何の仕事をする時でも、何のために必要なのか考えることでより良い仕事をできると思いました。

一日目と二日目は緊張もあり長く感じましたが、職員の方が優しく、面白い方だったため、三日目から最終日までにはあっという間でした。市役所で職業体験することで本当に貴重な体験ができたと思います。この体験は、インターンシップに参加しないとできないことなので、積極的に参加した方がいいと思いました。

今回お世話になった帯広市役所総務部職員課の皆さん、お忙しい中ご指導していただきありがとうございました。



畜産科学課程 3年 小林 史香
実習事業所 帯広市 職員課

私は以前から公務員を志望しており、最も身近な公務員の仕事として帯広市役所の仕事を体験し、就職活動に向けて準備を始めていこうと考えたため、大学からの紹介で参加させていただきました。職業体験を通じて、市役所内部の細かい仕事内容を知ることができました。

市役所といえば市民の方と接しているような仕事真っ先に思い浮かびますが、私の行った総務部職員課では事務作業などの単純作業が多く、そのような細かい作業の積み重ねによって市役所という組織が成り立っているということを学びました。この研修を通して、帯広市役所の魅力を知ることができて、私の中で帯広市役所に就職したいという意思が固まりました。帯広市役所で活躍できる人材になれるよう、公務員試験の対策を早めに始めると同時に、残りの学生生活に真剣に向き合っていこうと覚悟するようになりました。

今後は授業や研究と並行して就職活動のほうも頑張っていこうと思います。社会に出た時の自分の姿も想像するようになりました。人の役に立つことのできる、自分の役割を全うして目の前のやるべきことをやりきれぬ社会人になりたいと考えています。

後輩に向けてですが、まず就職について少しでも迷っているのならインターンシップに参加するべきだと思います。行きたいと思うところのインターンシップと日程が合わないなどの理由で第一志望のインターンシップに行くことができないとしても、それに近いところを探して参加するべきです。例えば私も、もとは帯広市役所が第一志望ではなく、ほかの市役所などを考えていましたが、帯広市役所でのたくさんの人との出会いを通じて、帯広市役所が第一志望に変わりました。このように、いくら人から話を聞いても想像に過ぎないので実際に足を運んでそこでの仕事を体験してみることで自分の将来が見えてくるのが大いにあるとおもいます。そのきっかけづくりとしてインターンシップは進んで参加し、そこでその職場の雰囲気が自分に合っているかどうかを確かめることは大切なことになると思います。高校受験や大学受験と違い、自分から就職活動に取り組んでいかなければならない中で、就職活動に頭を切り替えるスイッチとしてインターンシップを利用するのも良いと思います。

最後に、お忙しい中ご指導いただいた帯広市役所総務部職員課の皆様にご心より感謝を申し上げます。



畜産科学課程 3年 栗原 佑紀

実習事業所 帯広市 みどりの課 環境都市推進課 都市計画課

私は、帯広市のインターンシップに参加させていただき、五日間で3つの課を体験した。みどりの課、環境都市推進課、都市計画課である。

インターンシップを通して感じたことは、職業としては帯広市とひとくくりにはされがちなが、課によって仕事内容が全く違うということである。実際に就職をしたときには、3～4年で様々な課を回ることになるので、今回多くの課を経験することができたことは大きな収穫であった。仕事内容は多様であるが、大きく二つに分けることができると思う。それは、市民と対話する仕事と事務仕事である。

市民と対話する仕事として、苦情対応とイベントの補佐を経験した。これは、市役所だからこそできることであった。苦情対応では、市役所に問い合わせがあった苦情にたいして一つ一つ現地に赴いて現状を確認していた。時には、対話をして問題解決を図っていた。小さな意見も反映されることがすごいと思った。イベントの補佐では、緑化推進のPRと高速道路利用推進PRを行った。実際に市民の人と接する機会であった。すぐに効果が表れるものではなく、地道であった。しかし、意識を少しずつ変えていく大切な行動である。

事務仕事は、課によって内容が事なるが手続きの書類を書くことが多い。市民に接することは少ないが、市として形作っていくために欠かせない。ここで感じたことは、法に基づいて行動しているということである。普段は、意識して生活することは少ないが、分野ごと条例や決まり事がある。それらが守られているからこそ、私たちが住みよい生活を送れていることを実感した。新しい課に配属されると、また一からその分野の法を学ばなくてはならず、大変な一面も見られた。

今回のインターンシップを通して、仕事の内容や、良い面、悪い面を知ることができた。これは実際に就職を考えるにあたって、すごく大切なことだと思う。市役所は、経験を積みますという意味で多くの課を回ることになる。これは、様々なスキルを身に付けられるという点で利点である。しかし逆に言えば、一つのことを極めるには向かないという欠点がある。また、市役所が民間企業と大きく異なる点がある。それは、成績がいいからといって昇給がないが、解雇されることもないということ。これを魅力と感ずるか否かが、市役所の公務員に向いているかどうかだと思った。



畜産科学課程 3年 齋藤 英嗣

実習事業所 帯広市教育委員会 おびひろ動物園

周囲の人たちが参加していたため、自身もやってみようと思い参加した。また自身の就職活動を考えて焦りを感じていたため。また、大学を通して行えると聞いたため、それを利用し参加した。

自分は動物園の就業体験を通して、今までぼんやりとしていた飼育員という職業についての様々なことを知ることができた。飼育員という職業は主に飼育動物の世話をを行い、機会があれば環境教育などを行うものなどインターンシップ前まで思っていた。しかし、飼育業務は当たり前のことだが、他にも資料を作るためにパソコンを使用する作業、園内のエキノコックス対策のために駆虫薬を園内中歩いて散布するなど様々な仕事内容があり、体験した。色々な業務をやって感じたことは、常日頃から多くのことを学び習得していく重要性を感じた。専門のこと以外にも仕事を行うために必要なことは数多くあり、何がどこで必要になるかわからない。そのためどんなことでも学び、自分の中に吸収していくことが必要だと実感した。

また、些細なことでもよく観察し、変化にすぐ気付くことが大切なのだと思う。動物はケガや病気等を自然に隠してしまう。そのため飼育員にとって担当する飼育動物の体調を行動や餌の残り、糞の状態などによって判断することは管理するうえで非常に重要である。これは他の仕事に通じるものがあると感じた。周りの状況をよく観察し、その場合に合わせた判断をすることは全てのことに於いて基本的なことだが、実行すると難しい。よって日常から意識して実行し習得することが今後の自分に役立ち、自身にとって必要な事柄であるためこれから意識していこうと思う。

体験を通して、自分に足りないことは無数にあるとわかったため、この足りないことを様々な経験をする中で自身に吸収していこうと思った。また大学を卒業した後は社会人として世間に出ていくため、行動に伴う責任の重さを大学にいる間から理解して、そのことを頭において生活していきたいと思う。

インターシップはどこに行っても自身の足りないところを発見でき、色々なことを考えるいい機会のため、できれば参加していった方がいいと思う。自分も最初は参加するつもりはなかったが、周りに流される形で参加した。しかし結果として自分のことや仕事への姿勢などを考える良いきっかけになり良い経験となった。こんな自分でもこう思ったため、他の人もきっときっかけを得るよい機会と思う。

おびひろ動物園様には日頃の忙しい業務の中、このような貴重な機会をいただき非常に感謝しており、また数多くの経験をさせていただいたことにも感謝の念しかありません。この素晴らしい経験を自分の成長の糧にしていきます。

畜産科学課程 3年 宮崎 彩乃
実習事業所 神戸市立須磨海浜水族園

私は将来、学芸員の資格を取得し、動物に携わることができ教育機関としての役割を兼ね備えた職に就きたいという考えをもっていました。かねてより海獣類の生態・飼育方法に関して興味があり、実際に水族館の現場に立って学びを深めたいという思いがあったこと、中学生の頃に神戸で海洋生物実習を行ったということ、以上が今回神戸市立須磨海浜水族園での実習参加するに至った経緯としてあります。

期間は8月29日から9月25日の計28日間（うち休日6日間）で、おおよそ8時半から17時半の計9時間（うち休憩時間が30分から1時間）実習を行いました。申し込み方法は大学の実習先一覧から選択して自身で神戸市立須磨海浜水族園に電話で問い合わせをした後、大学を通じて書類を送付し、受け入れを承諾していただきました。この際、海獣類の飼育・展示業務を希望し、イルカ・海獣チームへの配属が決まりました。

実習内容としては、マゼランペンギン約60羽・ゴマフアザラシ5頭・バンドウイルカ8頭の飼育エリアの掃除、給餌準備、参加型イベント、ライブの補助が挙げられます。採餌容器の洗浄や消毒、餌となる魚のビタミン剤投与や体調管理・検温の補助、飼育エリアの水温・塩素濃度の測定といったものまで多岐にわたりました。多くがスピードを要求される作業であり、状況を見極めて効率よく動くことができる判断力、長時間の屋外での作業や力仕事をこなすことができる体力、そして常に動物の動作やわずかな体調の変化を認識することができる観察力が必要とされる現場であったと感じます。

飼育員の方々は私の質問に真摯に対応し、作業一つ一つの指導をしてくださいました。説明を受けつつ特別に飼育員の方の指導の下、動物の体の各器官に触れながら間近で観察し、またトレーニングの方法についてはサインの出し方や給餌のタイミングなどの詳しい解説を受け、非常に勉強になりました。考えを私たちが本当に理解することなど到底難しい動物に、いかに負担をかけないように作業が進行できるか、なおかつお客様に最大限楽しんでいただけるようイベントやライブを実施できるか、常に意識を怠らない飼育員の方々に尊敬の念を抱きました。

実習に参加するにあたって必要であるのは、なぜ実習に取り組むのか明確な目的意識をもつこと、そして作業の一つ一つがなぜ行われるのかその意味を常に考え、理解して実施することだと思われまます。漠然ととらえる職業像と現場で体験する業務とでは大きな違いがあり、実際に経験しなければ理解できないことが数多くあります。将来の進路を考えるだけにとどまらず自身の経験値として、実習に参加することで得られるものは非常に大きいと感じました。

今回はお忙しい中丁寧に対応をし、指導していただきました神戸市立須磨海浜水族園の皆様、本当にありがとうございました。実習で学んだことを生かせるよう、今後も勉学に励んでいきたいと思ひます。

畜産科学課程 3年 渡部 衿香
実習事業所 公益財団法人知床財団

自分が将来就きたい職業を体験できる機会は、これからの学生生活でそんなにあることではないので、3年の夏休みを利用してインターンに行くことは前々から決めていた。また、就職した先輩が学生の時にインターンに行ってよかったと聞いたので、自分も行ってみたいという理由で今回インターンシップを履修するに至った。

このインターンは自分で探した。このインターンは、世界自然遺産の知床を拠点に野生動物や植物を相手にするフィールドでの業務だけでなく、接客や展示物の作成など幅広い業務に携われるのが魅力だった。

3年生になってから、人と自然のどちらにも関われる仕事に就きたいとなんとなく考えていたが、その思いがより一層強くなった。また、座学で学ぶことも重要だが、実際にフィールドに出て五感で感じて、さらに現場で頭を使い学ぶことが何よりも大切なことだと思った。今回のインターンを通して、現場で使える実践的な知識がまだまだ足りないということを思い知らされたので、今後もっと勉強したいという気持ちが強くなった。

知床財団のインターンは1ヶ月程度からの受け入れで、他のインターンと比べると期間が長いように感じてしまいますが、インターン後の感想としてはもっともっと期間を延長したいくらい本当にあっという間でした。他大学のインターン生との交流ももちろんですが、知床に住む地域の方々とお話する機会が多かったのも、このインターンの魅力の一つだと私は思います。インターン中は、仲良くさせていただいた漁師さんから、ほぼ毎日のようにとれたての魚をいただいていた。また、知床財団の方々もみなさん優しくて面白い方ばかりなので、毎日楽しく仕事をすることができました。知床財団では、夏のインターンだけでなく冬のインターンや学生ボランティアも募集しているので、そのような機会を通して、私は今後も知床財団の方と関わりたいと考えています。

インターンを履修することは前々から決めていましたが、私の場合はインターン先を前期の授業が始まってから探したので、インターンに行きたいという方は、早め早めの準備をお勧めします。個人で探すのもありですし、また、学校に募集が来ているインターンは、学務課のファイル等まめにチェックしておくともよいかもしれません。

以下写真です。

休日に連れていってもらった知床五湖です。
知床連山が水面に映っています。



これは、休日に観光船に乗った時の写真です。マッコウクジラや、シャチのシーズンは過ぎましたが、イシイルカを見ることができました。



カラフトマスの遡上確認をしている、私が写った写真です。



保護されてきたオジロワシの放鳥です。



畜産科学課程 3年 権藤 七虹
実習事業所 有限会社ワールド牧場

私は羊が好きで羊に携わる仕事に興味があったので実際に飼っている所の仕事を体験するために参加した。また、観光牧場という畜産と接客が混ざった職業を経験するため。

自分で HP から探し、申し込んだ。

動物に携わる仕事で一番大切なことは、動物の些細な変化にも気付けるように動物の毎日の観察・頭数確認を怠らないことだと思った。観光牧場はたくさんのお客様が来て、いつどのような病原体が動物に感染するかわからない。また、逆に動物の様子がおかしいとお客様に怪我をさせる可能性があるからだ。実際に、インターンの期間中に子豚の様子がおかしく、スタッフさんに知らせると怪我をしていることがわかり、すぐに手当てされた。怪我は大した怪我ではなく、子豚の様子も徐々に元通りになった。

その他にスタッフさんが毎日愛情をもって動物に話しかけることも大事だと思う。そうすることで動物達もスタッフさんにはすごく慣れていて、犬や馬など信頼関係ができていた。また、スタッフさん同士の仲も良く、毎日楽しそうに仕事をしていて本当に動物が好きだということがわかった。

今まで小動物は繊細で臆病だと思っていた。だから、力をかけず優しく接していたがボロ出しの時にはウサギにひっかかれ、リスに餌を与える時には噛まれ、ヤギには散々走らされ、アヒルには暴れられた。体験していく内に、小動物でも凶暴で頑丈だということがわかり、今までの考えでは動物になめられてしまうなと思った。

ワールド牧場のスタッフさんみたいに働き甲斐があり、毎日楽しそうに仕事ができるように進路を決めていこうと思う。

私は夏休みに一か所しかインターンシップに行かなかったが、できるだけたくさんの方のところに行っておいたほうが色々な体験ができて良いと思う。しかも、今回私が行ったワールド牧場さんは私以外の実習生がたくさんいて、ほとんど年下ばかりだったので、2年生のうちから行くとよりたくさん経験ができると思う。

夏休みというお忙しいなかでたくさんの方の知識を教えてもらい、優しく接してくれたワールド牧場さんの方々に、本当にありがとうございました。実家に帰省した際には客として遊びに行こうと思います。

